

# 社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

## 2008年度事業報告

### I 概要

2008年度はJHF事務局の経費節減にあらゆる手を惜しまない努力をしました。コピー・印刷、郵送費の節約はもちろん、電話その他のサービス契約の見直しから人件費の思い切った体制見直しまで実施しています。その結果単年度黒字の決算となりました。期中の計画されていなかった事業として、アジアオリンピック評議会主催の第1回アジアビーチゲームズが、インドネシア共和国・バリ州で10月18日（土）から26日（日）の9日間開催されました。パラグライディング競技（アキュラシーとスピードラン）が正式競技となり、日本オリンピック委員会が6名の選手を派遣しました。JHFは選手を推薦し、監督を送り込みました。予算化されていなかったため、予備費から派遣選手のためのドーピング検査関係の費用を負担しました。今後も2年に一度開催され、参加を続ける予定です。

残念ながら2008年度の死亡事故はパラグライダー2件、動力付2件発生しました。安全啓蒙活動としては、定期的なリパックにより非常時の確実な対応が取られるよう、レスキューパラシュートリパック認定証制度の創設をしました。（2009年4月開始）

2008年度のフライヤー会員有効登録者は11,258名で、昨年度に比べ5.5%減少（2007年度は対前年7.4%減少）しました。減少の歯止めとして、フライヤー会員の口座振替推進を実施し、現在は901名の方が口座振替をしております。

普及活動としては、日本航空協会が行っている航空スポーツ教室に協力をしており、正会員の協力によりパラ体験コースを担当し、2008年度は東京都2件、宮城県1件で開催しました。

#### 1. 収支の現状

2008年度予算体制は、前年からの繰越金900万円あまりのうち300万円ほどを事業に消化し、単年度赤字の計画で臨みました。予算案の精度の問題としては、長年のひずみの蓄積が予算編成の中に潜み、毎年度の決算による各項目の実態費用との整合がおろそかになっていました。具体的には、年二回総会の際には行われていた「補正予算編成」を実施せず、前年度予算案を元に予算計上されていたものです。このため、委員会の活動費は軒並み予算オーバーとなり、事務局のIT関連予算は極端に圧縮されバランスを欠いたものとなっていました。これに対し、経費決済上は委員会活動には節制を求めるものの予算内厳守とはせず、事務局経費については可能な限りの削減に努めました。

こうした中で、フライヤー保険の値上げについては予測はされていたものの、その上げ幅の大きさが想定を大きく上回り、今後の収支に重大な影響を及ぼすものとなってしまいました。このことに対しては、08年度までに積上げた繰越金を、保険の値上げ分に充当しつつこれまで同様の節減予算で事業を推進し、将来に向けた抜本対策については総会で審議していただく予定です。

#### 2. 普及振興事業の実施

- 1) 教員検定員により教員助教員更新講習会を各地で開催し20ヶ所 221名が受講しました。教員・助教員の知識、技能の維持向上を行うことにより、JHFフライヤー会員へ安全フライトに関する啓蒙活動を推進するため。
- 2) 2007年度からの教員検定員による教員検定会にて、24名が新しく教員として活躍します。（HG4名、PG17名、MPG3名）

### 3. 特記事項

- 1) 第32回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛  
7月26日(土)～27日(日) 滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 2) 第20回スカイ・レジャー・ジャパン2008 in 静岡に参加  
11月8日(土)～9日(日) 静岡県富士山静岡空港建設地(牧之原市、島田市)
- 3) 第14回スカイスポーツシンポジウムを協賛  
12月6日(土)～7日(日) 日本大学理工学部駿河台校舎
- 4) リアルパラワールド木島平ミーティングを協賛  
3月28日(土)～29日(日)

## II 事項別状況

### 1. 組織

- (1) 会員数  
ア 正会員 47名  
イ フライヤー会員 11, 258名(2009年3月末有効登録数)  
ウ 賛助会員 2名
- (2) 役員構成  
理事 7名(内会長1名、副会長1名) 監事 2名(2009年3月末現在)

### 2. 会議等の開催

#### (1) 総会

2008年	6月通常総会
開催通知	2008年4月17日(木)
開催日	2008年6月18日(水) 11:00～17:00
開催場所	東京都南部労政会館 第5・6会議室 (品川区大崎)

議案	第1号議案	2007年度事業報告の承認について
	第2号議案	2007年度決算報告の承認について
	第3号議案	2008年度事業計画(案)の決定について
	第4号議案	2008年度予算(案)の決定について
	第5号議案	新法施行に伴う公益認定申請方針の承認について
	第6号議案	選挙管理委員会・委員の選任について
	第7号議案	JHF役員選挙規約の改訂について
	第8号議案	JHF理事の産休取得の承認について

#### (2) 理事会

ア	第1回理事会	開催日	4月23日(出:理事8、監事0 欠:監事2)
イ	第2回理事会	開催日	5月12日(出:理事8、監事0 欠:監事2)
ウ	第3回理事会	開催日	8月1日(出:理事6、監事1 欠:理事1、監事1)
エ	第4回理事会	開催日	9月17日(出:理事7、監事2 欠:0)
オ	第5回理事会	開催日	12月11日(出:理事7、監事1 欠:監事1)
カ	第6回理事会	開催日	1月21日(出:理事7、監事2 欠:0)
キ	第7回理事会	開催日	3月11日(出:理事5、監事1 欠:理事2、監事1)
ク	第8回理事会	開催日	5月8日(出:理事6、監事1 欠:理事1、監事1)

(ア、イ:理事8名、監事2名、ウ～ク:理事7名(1名産休)、監事2名)

#### (3) 委員会

- ア ハンググライディング競技委員会 競技会開催時に実施
- イ パラグライディング競技委員会 競技会開催時に実施
- ウ 補助動力委員会 6/12、12/9、3/30
- エ 教員・スクール事業委員会 7/18
- オ 安全性委員会
- カ 制度委員会
- キ 選挙管理委員会 9/16、1/27
- ク 三法委員会 8/4、10/28

上記のほか電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

### 3. 事業の実施状況

#### (1) 普及振興活動

- ア JHF レポートを発行 (2009/5月)
- イ 都道府県連盟事業費の交付
- ウ 日本学生フライヤー連盟へ助成金交付

#### (2) フライヤー会員登録

登録数：2008年度 6,039人 (新規・更新)  
2007年度 6,201人

#### (3) 技能証発行

- ア HG： 255枚 (2007年度 235枚)
- イ PG： 1,533枚 (2007年度 1,546枚)
- ウ MPG： 48枚 (2007年度 60枚)

#### (4) 競技会の主催・公認・後援

- ア HG： 9件 (内FAIカテゴリーⅡ：2件)
- イ PG： 19件 (内FAIカテゴリーⅡ：5件)
- ウ HG・PG同時開催： 5件

#### (5) 競技会の開催

- ア HG：
  - ① 日本選手権  
2008年4月9日～14日 茨城県石岡市足尾エリア  
参加53人 (内女子6人) 不成立
  - ② ハンググライディングシリーズ  
有効成績者数 99人 1位 大門浩二
- イ PG：
  - ① 日本選手権  
2008年10月31日～11月4日  
栃木県宇都宮市AKAIWAエリア  
参加76人 (内女子11人) 日本選手権者：平木啓子
  - ② アキュラシー日本選手権  
2008年9月21日～23日  
山形県南陽市南陽スカイパーク  
参加33人 (内女子7人)  
日本選手権者：山谷武繁 女子：茂呂可寿美
  - ③ ジャパンリーグ・ワールド： 有成績者数30人 1位：岩崎拓夫  
女子： 有成績者数 2人 1位：河村葉子  
ジャパンリーグ・ナショナル：有成績者数48人 1位：和田浩二  
女子： 有成績者数 7人 1位：河村葉子

ジャパンリーグ・ナショナル・シリアル：

有成績者数17人 1位：関口典彦

女子：有成績者数 6人 1位：中目みどり

ジャパンリーグ・国際選抜：有成績者数78人 1位：和田浩二

クロスカントリーリーグ： 1位：関口典彦

アキュラシージャパンリーグ・スクラッチ：

有成績者数21人 1位：山谷武繁

アキュラシージャパンリーグ・ハンディキャップ：

有成績者数22人 1位：山谷武繁

(6) スクール・エリア情報の収集及び公開

ア スクールサイト登録校 125件 (うち新規登録校 6件)

イ エリア情報掲載 154件

(7) 海外関係団体活動

CIVIL総会 2009年2月19日～22日

オーストリア ハル・イン・チロル 出席者：デレグイト 岡芳樹

(8) 世界選手権へのチーム派遣

ア 第11回パラグライダー世界選手権

2009年1月23日～2月6日 メキシコ ペニョン 参加選手：4名

イ 第11回ハンググライダー・クラス1女子世界選手権

参加選手：6名

第4回ハンググライダー・クラス5世界選手権 参加選手：5名

2008年7月19日～8月2日 イタリア モンテクッコ

(9) オリンピック行事への参加

アジアビーチゲームズ (ABG)

参加選手：6名

2008年10月18日～26日 インドネシア バリ

(10) その他

ア 機体型式登録 6件 (PG)

イ セーフティノート追加 10件

ウ レジャー航空無線機貸与 延32件 1,790台

エ AED貸出 7件 ポロジメーター貸出 6件

オ フライヤーのための傷害保険「JHF総合保障制度」加入者数：774名

追記： 事故 (2009年4月1日～5月17日) と保険金高額支払い

1. 4月4日 パラグライダー 墜落による重傷 (群馬県)
2. 4月5日 ハンググライダー テレビ送信所鉄塔に衝突による死亡 (新潟県)
3. 4月6日 パラグライダー 墜落による重傷 (岡山県)
4. 4月11日 ハンググライダー 墜落による重傷 (栃木県)
5. 4月19日 パラグライダー 墜落による軽症 (岡山県)
6. 4月30日 パラグライダー 墜落による死亡 (三重県)
7. 5月9日 パラグライダー 墜落による重傷 (岡山県)
8. 5月10日 ハンググライダー 墜落による重傷 (岐阜県)

保険金 (第三者賠償責任) 高額支払い (2009年1月～)

1. MPG 約2,800万円
2. MPG 約1,800万円

添付： 2008年度 委員会等活動報告補足

以上

< 2008 年度委員会等活動報告補足 >

I ハンググライディング競技委員会 委員長 板垣 直樹

- 1) WEB登録によるエントリーの簡素化
- 2) 委員会ホームページの運営  
大会公認案内、エントリー案内等の更新は随時実施。
- 3) 第11回ハンググライディングクラスI女子世界選手権・第17回ハンググライディングクラスV世界選手権への選手派遣 2008年7月19日～8月2日  
クラスI女子 6名参加 国別第3位  
クラスV 7名参加 第6位 板垣直樹 国別5位
- 4) 2008年日本選手権開催(茨城) 2008年4月9日～13日  
55名参加。タスク1本のみでの成立で日本選手権としては不成立。
- 5) ハンググライディングシリーズ管理運営  
1位:大門浩二、2位:和田典久、3位:桂 敏之  
女子1位: 鈴木皓子

II パラグライディング競技委員会 委員長 岡 芳樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) WEB事務局・ホームページ管理
- 3) Jリーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
  - ・ Jリーグ結果
    - WPR 1位:和田浩二、 2位:川上賢一、 3位:上山太郎
    - WPR女子 1位:平木啓子、 2位:河村葉子、 3位:中目みどり
    - NPRオープンクラス 1位:上山太郎、 2位:和田浩二、 3位:若山朋晴
    - NPRオープンクラス女子 1位:平木啓子、 2位:河村葉子、 3位:中目みどり
    - NPRシリアルクラス 1位:和田浩二、 2位:加賀山務、 3位:阿部俊宏
    - NPRシリアルクラス女子 1位:中目みどり、 2位:河村葉子、 3位:青木あや子
  - ・ XCリーグ  
1位:関口典彦(287.6km)、2位:中井正人(246.7km)、3位:エディ・クマール(231.2km)  
最長フライト:五位淵孝幸(99.9km)
  - ・ AJリーグ
    - スクラッチクラス 1位:山谷武繁、 2位:石屋智之、 3位:横井清順
    - スクラッチクラス女子 1位:茂呂可寿美、 2位:本野広子、 3位:五十嵐久美
    - ハンディキャップクラス 1位:山谷武繁、 2位:石屋智之、 3位:横井清順
    - ハンディキャップクラス女子 1位:茂呂可寿美、 2位:本野広子、 3位:五十嵐久美
- 4) 2008年度日本選手権開催(栃木県宇都宮市) 2008年10月31日～11月4日

タスク 2 本成立

総合 1 位：平木啓子、2 位：川上賢一、3 位：上山太郎、4 位：成山基義、5 位：安陪裕滋、  
6 位：JINOH KIM(韓国)

女子 1 位：平木啓子、2 位：JUNGHUN PARK (韓国)、3 位：中目みどり

- 5) 2008 年度アキュラシー日本選手権開催 (山形県南陽市) 2008 年 9 月 21 日～23 日  
8 ラウンド成立

総合 1 位：山谷武繁、2 位：遠藤敏昭、3 位：加賀山務、4 位：岡芳樹、5 位：川村眞、  
6 位：菅野剛広

女子 1 位：茂呂可寿美、2 位：本野広子、3 位：松谷香

- 6) 国体デモスポパラグライダー大会 (大分県佐伯市蒲江町) 支援  
7) アキュラシーワールドカップ大会 (静岡県富士宮市) 支援

6 ラウンド成立

総合 1 位：ゾラン・ペトロビッチ (セルビア)、2 位：マティアス・フェラリック (スロベニア)、  
3 位：ウラディミール・ヤンコビッチ (セルビア)、4 位：ディミター・ラレフ(ブルガリア)、  
5 位：山谷武繁、6 位：ラファエル・ケリン (スロベニア)

女子 1 位：ミリーチャ・ビチャニン (セルビア)、2 位：茂呂可寿美、2 位：本野広子

- 8) 第 1 回アジアビーチゲーム (インドネシア、バリ) 代表チーム派遣  
9) 第 11 回パラグライディング世界選手権 (メキシコ、ヴァイエ・ド・ブラボ)  
2009 年 1 月 23 日～2 月 6 日に代表チーム派遣

総合 1 位：アンディ・アエビ (スイス)、2 位：ステファン・ヴィス (スイス)  
3 位：アリヤス・ヴァリッチ (スロベニア)、4 位：トーマス・ブラウナー (チェコ)  
5 位：ルカ・ドニーニ (イタリア)、6 位：マルコ・リタメ (イタリア)

59 位：上山太郎、69 位：平木啓子、71 位：若山朋晴、76 位：川上賢一

女子 1 位：エリザベス・ハードリー (フランス)、2 位：平木啓子、

3 位：アンニャ・クロル (スイス)

国別 1 位：チェコ、2 位：イタリア、3 位：スロベニア、22 位：日本

### III 補助動力委員会 委員長 須藤 彰

- 1) MPG 技能証規程の改定検討
- 2) MPG 教員検定会の実施
- 3) 九十九里クロスカントリーミーティング

### IV 教員・スクール事業委員会 委員長 岩橋 亘

- 1) 教員助教員更新講習会開催  
20 箇所で開催 221 名受講
- 2) 教員検定会開催 27 名受検

- 3) パラグライダー教本改訂
- 4) JHF 技能証規程改訂
- 5) JHF レスキューリパック認定証制度の実施検討

## V 安全性委員会 委員長 桂 敏之

### 1) 委員会の運用

運用経費の圧縮と効率的な運用を目的として、委員会の開催はメール通信による稟議で行なった。

### 2) リパック制度の創設

JHF レスキューパラシュートリパック認定証制度を創設。制度委員会、教員・スクール事業委員会も加わり実施案を検討した。

### 3) 機体登録制度の見直し

昨年に続き、新たなEN認証制度の動向を見た上でJHF登録制度の対応を検討中。

JHF登録制度については、ハングライダーは過去2年間、登録申請の事案がない。

パラグライダーも過去2年間、1社を除いて登録申請は行なわれていない。

### 4) 事故調査体制の整備と調査活動の実施

昨年度末に全国32名の教員検定員に重大事故調査専門委員を委嘱し事故発生時の調査対応の迅速化を図ったが、以降に国内で発生した4件のパラグライダー死亡事故では稼働しなかった。

6月15日

長野県北安曇郡白馬村 JHFホームページに事故報道を転載、安全性委員が情報収集。

7月6日

沖縄県名護市嘉陽 JHFホームページに事故報道を転載、沖縄県の教員から事故報告提出。

8月13日

長野県北安曇郡白馬村 JHFホームページに事故報道を転載、安全性委員が情報収集。

10月25日

京都市右京区京北下町 樹上不時着後の転落事故。JHFホームページに事故報道を転載予定だったが、記載されず。

- 5) AED（体外除細動器）の貸し出し運用について見直した。
- 6) エアー漏れ測定器（ポロジメーター）の貸し出し運用について見直した。
- 7) 事故情報データベースの制作、運用の継続

## VI 制度委員会 委員長 小林 秀彰

- 1) JHFに関わる制度の定款、規約、規程、規則等の文書管理
- 2) JHF 技能証規程の見直し
- 3) JHF レスキューリパック認定証規程創設
- 4) 理事会諮問事項の対応

## VII 公益法人制度改革三法特別委員会 委員長 泉 秀樹

- 1) 民法を根拠法とする社団法人が、2008年12月施行の新公益三法（以下：新三法）で今後は特例社団法人になり「5年以内にどのような法人格へ移行するかの説明資料作成」と、「新三法を根拠法とする社団法人化でJHFが目指すべき新公益法人化移行への委員会意見」を、2008年6月総会に向けてとりまとめ答申書を会長へ提出した。
- 2) 2008年6月総会で決議された「新三法を根拠法とする公益法人化をめざす」を受け、2009年7月に、政府公益認定等委員会および内閣府より発表された新法公益法人の「定款変更の案」（内閣府モデル定款案）を基準にして、現行JHF定款について変更の必要有無を含めた検討を重ねた。その結果、定款の変更が必要との結論に達し、現行JHF定款をベースにした新法対応定款案「新JHFモデル定款（A案）」と内閣府モデル定款をベースにした「新JHFモデル定款（B案）」を検討した。
- 3) 過去の省庁単位の認可基準から内閣府基準に移行した新三法へ適合する定款としては、内閣府モデル定款案を基準とした「新JHFモデル定款（B案）」による推進が当委員会として妥当との結論となった。
- 4) 当委員会でとりまとめた、「新JHFモデル定款（B案）」「新JHFモデル定款(B案)内閣府注釈付」「新JHFモデル定款(B案)三法特別委員会注釈」を会長宛てに答申した。ただし、内閣府委員会へ確認が必要な事項など、今後詰めてゆく必要がある事項がいくつか残っている。